

戦後70年

語り継ごう 戦争の悲惨さと平和の尊さを

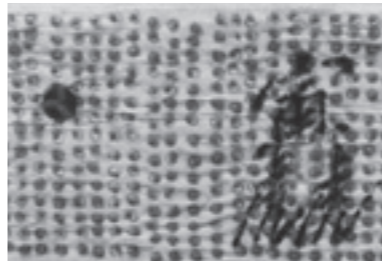
人々の心に深い傷を残した第二次世界大戦の終戦から今年で70年になります。過酷な時代を生きた人たちは高齢化が進み、当時のことを語れる人は少なくなっています。

戦争の悲劇を再び繰り返さないためにも、戦争の悲劇を風化させず、次世代に語り継ぐことが大切です。

戦争が残したものは

地域からも多くの方が戦地へ

日中・太平洋戦争では、地域からも多くの出征者がありました。家族は、出征者を万歳で送りつつ、無事の帰還を願って千人針を渡しました。しかし、戦地で命を落と



千人針
(一枚の布に千人の女性が赤糸で一針ずつ刺して縫い玉をつくり、武運と無事を祈って出征兵士に贈ったもの)

した方が少なくありません。遺族会がまとめた資料によると、地域から出征して戦没された方は290人とされています。兵役対象であった青壮年男性の1割を超える数字です。

戦中の村の生活

昭和13(1938)年に国家総動員法が制定されるなど、人も物資も軍需が最優先になっていきました。食料や日用品も配給制になり、農家ですら米に不自由するようになり、金属製品は兵器の材料として供出させられ、寺院の鐘の音も絶えました。さらに戦費のため、寄付や国債の購入が繰り返され求められました。空襲に備えて



市内に落とされた爆弾の破片

富士見にも空襲があった

昭和19(1944)年にマリアナ諸島を攻略した米軍は、日本本土を激しく空襲するようになりました。昭和20(1945)年4月2日未明、多摩の飛行機工場を爆撃したB29爆撃機が、帰りにこの地域の上空を通りました。そして、針ヶ谷、水子、下南畑、関沢の4地区に十数発の爆弾を投下しました。関沢では民家を直撃し、6人が命を失いました。

の文集が編まれ、また証言ビデオの製作も進められています。
(難波田城資料館の所蔵資料より)

問合せ／難波田城資料館
☎049-253-4664

体験を伝え残す

終戦から年月が過ぎ、戦争を知らない世代が育つと、戦争体験を記録する動きが起りました。当市でも戦後26年にあたる昭和46(1971)年以降、多く

市内で作られた主な戦争体験記録集		
タイトル	刊年	編者または発行者
おかあさんの戦争体験	1971	富士見町教育委員会
おとしよりのせんそうたいいけん	1975	南畑公民館
市民の戦争体験	1975	富士見市
市民の戦争体験Ⅱ	1981	富士見市
あすなる第三集 「私の戦争体験」	1986	水谷東高齢者学院
平和を願い戦争体験を語りつぐ文集	1986	富士見市ほか
第一回つるせ平和展の記録	1986	鶴瀬公民館
わたしの戦争体験	1989	鶴瀬学級
戦争体験を綴る	1994	水谷公民館
戦争体験 その時わたしは	1995	南畑公民館
平和を願う	1996	富士見市教育委員会
戦争体験文集	2003	富士見市教育委員会

戦争体験記録集は中央図書館と難波田城資料館で閲覧ができます。

ピースフェスティバルを続けて

1987年に第1回ピースフェスティバルを開催して今年で29回目を迎えました。ピースフェスティバルを通して、多くの方が戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の尊さ、そして次世代へどのように引き継ぐかを考えてきました。その中の歌、ダンス、劇を通して、ピースフェスティバルに関わった方のお話を聞きました。



歌を通して平和を

サークルの結成以来「愛と平和を歌う」をテーマに歌い続けています。年に一度は、地域の人たちと一緒に「平和」を考えたいという思いで、ピースフェスティバルの舞台上で歌ってきました。

今年の舞台では、1945年終戦の年にできたロシアの曲「道」を歌いました。

この道はいつかきた道にならないように。

これからも、ずっと戦争のない平和な世の中で生きていけることを願って、歌い続けます。

コーラス歌音 小川 梨穂

子どもたちに戦争のない世界を

子どもたちに発表の場をという気持ちで応募しました。

当日の「キッズ&若者ライブ」にはたくさん子どもたちと保護者が来場しました。また会場内には、歌、構成劇、写真展などを通して平和を考える催しがたくさんありました。

なかでも私の胸を熱くしたのは写真の中子どもたちの笑顔です。子どもたちの笑顔はなんて見る人を幸せにしてくれるのだろうと。

世界中の子どもたちが生死の不安なく、明日への希望に満ちて安心して笑顔で暮らせる社会がいつまでも続くよう、私たち大人が平和について考えていこうと思います。

ひまわりキッズ 黒川由美子

芝居を通して平和を表現

ピース構成劇は、1986年「民子さんのわかったこと」で幕を開け、今年の「十七歳の君へ」で30回を数えました。「平和に暮らすとは」「人としてどうありたいか」をテーマに作り続けてきました。ここまで長く続けられたのは、ピースフェスティバルが毎年開かれ、そこで自由に劇を作ることができたこと。そして多くの市民が関わって構成劇のバトンをつないできてくれたからです。

「黙ってられない思い」を劇で表現し、お客さんから温かな拍手をいただきました。次の年への意欲もわきます。この歩みが止められることのないように。

ピース構成劇 細川紀子

平和の尊さを語り継ぐ ～体験者が語る～



田中堅一さん
(81歳、水子在住)

私が見た戦争

私が国民学校2年生の時、日本の宣戦布告で太平洋戦争は始まり、昭和20年8月15日天皇の玉音放送で終戦となったのは6年生の夏だった。富士見市は当時農村で、男性は兵卒として内地外地へ出征し、残された女性や子どもは戦争の後方支援として活動してい

た。国民学校6年生の時、市内のあちこちに時限爆弾が投下され、「むやみに外を歩かないように」と言われたこともあった。また戦時中、一番恐怖に感じたのは何機もの米軍機による近隣の飛行場への攻撃だった。当時敵機を迎え撃つ飛行機は日本にはなく、南方から米軍機が飛んできて途中急降下をして飛行場を襲撃する。それを何機も続いて襲撃するようすは身震いする思いだった。



牛田進亮さん
(77歳、関沢在住)

70年たった今でも忘れられない記憶

昭和20年、当時私は零戦を作っていた三菱重工業名古屋航空機製作所の近くに住んでいた。米軍が製作所めがけて爆弾を投下するので、その流れ弾が幾度も家の近くまで落ちてきた。家の前にある防空壕で母が自分を抱き寄せて

「南無阿弥陀仏・・・」と耳元で拝んでいたのが今でも耳に残っている。空襲がひどくなり、国民学校2年生の時、三重県の小さな街に男女40人ほどの生徒と疎開した。当時の日本は食べ物不足していたため、お茶碗にこぼした大の麦飯とさつま芋の茎のおひたし、みそ汁という質素な食事で私は栄養失調になった。あれから70年経ち、平穩無事に今日まで生きていることに、心から感謝したい。

富士見市非核平和都市宣言

私たちは 何よりも家庭の平和を願い世界の平和を願っています。

しかし 地球をおおっている核兵器は世界の平和と安全を脅かしています。

私たちは 広島・長崎の過ちを再び繰り返させてはなりません。

私たちは 平和憲法を大切に、世界中の人びとと手をつなぎ核をもつすべての国に「今すぐ核兵器を捨てよ」と訴えます。

この市民の声と願いを非核平和都市富士見市の宣言とする。

1987年7月19日 富士見市

黙とうを捧げましょう

市では、原子爆弾や第2次世界大戦で犠牲になられた方々のご冥福と、核兵器をなくし平和な世界が実現することを願い、次の日時に防災無線を通じ、市民の皆さんに1分間の黙とうのご協力をお願いしています。

広島市原子爆弾投下日 8月6日午前8時15分

長崎市原子爆弾投下日 8月9日午前11時2分

終戦記念日 8月15日正午

市では、戦争を体験した方々に小学校へ出向いていただき体験談を語っていただく「戦争体験話者派遣事業」や講師の方を招いて講演を行っていただく「平和学習会」などの平和啓発事業を行っています。

これからも、さまざまな事業を通じて次世代に継承し、戦争を絶対に風化させないように全力で取り組んでまいります。

また、市は昭和62(1987)年には「日本非核宣言自治体協議会」に、そして、平成21(2009)年には「平和首長会議」に加盟しました。いずれの団体も、世界恒久平和の実現を目標に掲げています。加盟都市と手を結び、全世界のすべての自治体に核兵器廃絶と、平和宣言を呼びかけてまいりたいと思います。

なお、皆さまにおかれましては平和への思いを未来へつなげていくために終戦の日(8月15日)を前に「富士見市非核平和都市宣言」を読み返していただき、皆様一人ひとりが平和について深く考える機会にしていきたいと思います。

平和首長会議

核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、世界恒久平和の実現に寄与することを目的として、広島・長崎市が中心となり昭和57年に設立されました。平成27年6月1日現在、世界160か国・地域6,706都市が賛同し、加盟しています。



富士見市 2009年加盟

日本非核宣言自治体協議会

核戦争による人類絶滅の危機から生命と暮らしを守り、世界恒久平和実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力することを目的として昭和59年に設立されました。平成27年6月1日現在、310の自治体が会員となっています。

富士見市 1987年加盟

戦争を絶対に風化させない

富士見市長 星野信吾



写真から市長の動画メッセージが聞けます。

今年(2015)は戦後70年の節目の年です。原爆の日・終戦の日を迎え、ここに改めて戦争の犠牲になられたすべての方々に哀悼の意を捧げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

市では非核平和の理念が市民に深く根ざしていくことを願い、昭和62(1987)年7月に「富士見市非核平和都市宣言」を行いました。この宣言を行うにあたっては、昭和59(1984)年6月の市議会において全会一致での決議がされたわけですが、実はこの時、私

の父が市議会議員でありました。そして、戦後70年の節目の年に私が市長として平和の思いを述べることができ、親子二代にわたって平和の啓発に関する事に携われたことは、微力ではございますが、次世代に伝えるという意味では、一助となっていると思います。

日本は世界で唯一の被爆国として、核兵器の廃絶を訴えていくとともに、戦争の恐ろしさと平和の尊さを語り継いでいかなければなりません。

届け！ 平和の鐘の願い



月日の流れとともに、戦争を知らない世代が増えました。一方、戦争体験者の数は年々減り続けています。

富士見市役所前に、市の平和のシンボルである「平和の鐘」があります。1987年に水谷東公民館高齢者学院で学ぶ人々が、戦争体験を語り継ぐため、手作りで「平和の鐘」を製作しました。その後、この意思を受け継ぎ、富士見市に平和の鐘を建立しようと、平和の鐘建設委員会が立ち上がりました。6年間にわたり運動を続けて、市民の皆さんから寄付などをいただき1995年に市役所前に建立しました。

この鐘は、戦争の記憶が風化することがないように、改めてのちのちの大切さをかみしめ、日々の生活の幸せと世界の平和が続くようにという市民の願いが込められています。

～平和の鐘への思い～

図書館や平和の鐘の建設に

力尽くしてまた一人逝く

この短歌は、2011年9月23日に逝去された方を思い作りました。

鐘五つ鳴らしてピースフェスティバル

市民作りし平和の音色

この短歌は、2012年のピースフェスティバル開会式に参加した後、作りました。

「平和の鐘」には、たくさんの方々の思いが込められています。非核平和宣言都市、富士見市にふさわしく、毎年鳴り響いてほしいと願っています。

佐藤マサ代

「平和の鐘」は、模擬店やコンサート、色々なサークルの方にボランティアで出演していただいた舞台の入場料や市民の皆様の寄付などで富士見市民の有志が建立しました。

この鐘には、多くの方の平和に対する思いがたくさん詰まっています。一緒に活動してきた仲間も、年とともに亡くなったり、引っ越しをしたりして減っていき2011年には平和の鐘友の会も解散しました。今は、残った有志の仲間と終戦記念日、東日本大震災の日などに集まって鐘を鳴らして平和を祈っています。

鐘を鳴らすためのひもは、市役所の受付に行けば、いつでも貸してもらえます。どうぞ皆さんも、一緒に鐘を鳴らしてください。

川向玲子

平和事業の催し

殺蔵展示

「70年前に戦争があった」

市内の戦争被害や戦時下の暮らしなどの資料を展示します。

とき／8月8日(土)から

場所・問合せ／難波田城資料館

☎049-253-4664

(仮称)ピースサロン

戦争体験語り部の方々を中心に交流を図ります。一般の方もお気軽にお越しください。詳しくは水谷公民館へお問い合わせください。

とき／9月25日(金)

午後1時30分

場所・問合せ／水谷公民館

☎049-251-1129

戦争体験を語るDVD

平和事業として2004年から戦争体験者の話をDVDに記録しています。

DVDは、中

央図書館で閲覧

ができますので

ぜひご覧ください。

